



川沿いあり。谷間あり。
これぞ四万十川中流域!!

井崎 ②

広大な地区ゆえの苦労多し!

前号から続く。昭和31(1956)年沈下橋ができ、その3年後、井崎小学校が対岸の広瀬に移転するかたちで広井小学校が開校された。このスケジュールは、小学生の通学への配慮だったのだろうか。沈下橋ができる前は、多くの地区がそうであったように、水量が多い夏場は渡し舟、水量が減る冬場は引き舟で行き来した。当時の小学生たちは井崎小学校があったので四万十川を渡らずに済んだが、中学生は広瀬へ渡って十川まで行かねばならなかった。川を渡る面倒だけでなく道のりも長い。今のような舗装された道ではない。「藁草履は、川に近い家の子でも3日ともたなかった。井崎谷や相後のような奥深い地域や最西端の柳瀬からだ、距離も長く険しくて3日どころではなかった」という。自転車の時代になっても、砂利道ゆえの苦労は続いた。

町境に展開する集落と四万十川沿いの集落と

井崎谷は1940年代までは大井川村であったと前号で書いた。相後川に沿って奥へ深い相後集落も、昔は東の山越えでつながっている大井川との交流が盛んだった。また南の山を越えた西土佐の藤の川とも交流があったようだ。柳瀬は西土佐の半家との行き来が多かったという。

さて、谷間の地区から一転、四万十川沿いに保喜という集落がある。道の駅とおわの西から広瀬に入っていくと、四万十川の対岸に最初に見える南向きの集落で、背後の山の迫り具合が特徴的である。山の裾野と河岸との間にあるわずかな空間

に民家と田畑が展開している。背後の山はとても急峻で、その斜面には先人が苦労して切り拓いた茶畑などが駆け上るように張り付き、一日中太陽の光を受けている。

ウバ池の名の由来

八坂神社と河内神社のすぐ前に「井崎農村公園」という広々とした公園がある。ここは、元々は竹藪に覆われた低地であったが、水害対策のために埋め立てられて公園となった。以前、この竹藪には四つの池があり、地元の子どもたちがよくウナギやフナを釣りに来ていた。池は上から順に「小池」「大池」「中池」「ウバ池」と名付けられていた。小、大、中はその名の通りだったが、ではウバ池とは?「あるお婆さんがこの池でよく釣りをしていたことからそう呼ばれるようになったと、むかし、子どもの頃に聞いたことがある」と、むかし子どもだった地区の方が教えてくれた。



昔は竹藪だったという井崎農村公園

町のうごき

(3月31日)	人	口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,113	-53		男 0	17	38	74
女	7,649	-56		女 2	15	26	69
計	14,762	-109		計 2	32	64	143
世帯数	7,904	-20		(3月中の届出)			

窪川地域 10,527人 大正地域 2,035人 十和地域 2,200人